

災害のたびに見事に再生 不屈の精神で取り組む平成の復興

「災害に屈しない」
住民の心に復興の
土台がある土湯温泉



▲「訪ね見る誰もが憩う光るまち」をテーマに掲げ復興に取り組む土湯温泉

平成22年の国の直轄河川の水質調査で一級河川水質ランキング第1位に輝いた荒川の
上流に位置する温泉郷。豊富な湯量と多彩な泉質が自慢の土湯温泉は、鳴子、遠刈田と並ぶ『東北三大こけし発祥の地』としても有名です。

「土湯の歴史は、決して順風満帆ではありません。荒川の氾濫や二度の大火など、度重なる災害に見舞われながら、そのたびに地域が一丸となって立ち上がり、復興してきたのです」と加藤勝さん(土湯温泉町復興再生協議会会長)。

今回の震災では建物の損壊などで22軒中5軒の旅館が廃業を余儀なくされたうえに、福島第一原子力発電所の事故による風評被害が重くのしかかりました。「先の見えない不安の中で、私たちに元気をくれたのは、二次避難で土湯温泉に来ていた子どもたちで

市街地からの温泉



した。温泉街で元気に遊ぶ声にどれだけ励まされたことか。その姿に昭和初期の大火で9割の家屋が焼失しても、苦難を力強く克服し、復興、再生を遂げてきた土湯の歴史が重なりました」

その後、加藤さんは震災後の土湯をなんとかしたいという地元の声を結集し、昨年10月に「土湯温泉町復興再生協議会」を立ち上げました。

集まったメンバーの多くは40年前、土湯温泉観光協会に青年部組織『あらふど(新足)の会』を作った時の仲間。当時、毎晩集まっては、土湯の将来を喧々諤々語り合っていたそうです。「新雪をかき分けて歩くことを地元

の方言で『あらふど』といいます。我々が道をつけて後継者につなぐ。『再生の鍵は、自助、共助、公助』まずは、自分たちで復興のビジョンを描き連携を深めながら進めていこうと思いました。私たちのテーマは『訪ね見る誰もが憩う光るまち』です」

現在、加藤さんたちは、被災地の規制緩和など特例措置を盛り込んだ復興特区と、水力や地熱を利用した自然再生エネルギーを通じて、発電インフラを整備するという二つの柱を軸に、土湯温泉の再生と復興を目指しています。

(※)二次避難所
仮設住宅に入居できるまでの間、一次避難所での厳しい生活環境を改善したり、集団感染を避けるため、行政が民間の宿泊施設(旅館、ホテルなど)を借り上げたり、公営住宅を提供しているもの

土湯温泉町復興再生協議会 会長
加藤 勝一 さん

街を笑顔にした
「湯けむりクエスト」
次は真冬の花火で
元気になる！

昨年10月30日、加藤さんたちの励ましの下、青年部が主催したイベントが、土湯温泉周辺の観光施設や温泉街を巡ってクイズに答えたり、宝物を探しながらゴールまでの時間を競い合う「湯けむりクエスト」でした。当日は、15組約50人が参加し、温泉街をダッシュで走ったり、大き

な声で仲間を呼んだりして楽しく過しました。その後「荒川せせらぎロードゆ〜ろ」で、地元の人たちとパーベキューで交流。会場には2,500個のボトル灯籠を並べ、参加者全員で土湯温泉の復興、福島の復興を願いながら火をともしました。

「あんなに気持ちが高揚したのは、震災以来初めて。温泉街に人と活気があふれて『やれる！』『土湯は負けない！』と思いました」と、陳野原亜紀さん（土湯温泉観光協会青年部・ひさごカフェ店主）。

そんな陳野原さんですが、震災直



▲会場となった新名所「荒川せせらぎロードゆ〜ろ」に2,500個のボトル灯籠をともしました



▲ゆらゆらゆらめく小さな明かりを眺めていると、とても優しい気持ちになってきます



- (上) 町内に4カ所ある足湯(無料)。温かい温泉に足をつけたのんびりしていると体がぼかぼかしてきます
- (中) 名物を探しながら温泉街をぶらぶら。小腹がすいたら手作りこんにやくの田楽で一休み
- (下) 整備を進めてきた荒川管理用通路「荒川せせらぎロードゆ〜ろ」。清流沿いを散策できる



土湯温泉観光協会青年部
ひざごカフェ店主
陳野原 亜紀さん

後は体調を崩し約1カ月店を休みました。再開のきっかけになったのは、他でもない土湯温泉に二次避難されていた人の声。「このクレープ屋さん、いつになったらオープンするのかなあ」という声に、スイッチを入れてもらったのだそう。「食べたい」と思ってくれている人がいる限り、やらなきゃと思いました。今は、好きな仕事ができることに感謝しながらクレープやお菓子を焼いています」。元「あらふど(新足)の会」のメンバーで、現在は土湯温泉町復興再生協議会で活躍する父の姿を見ている陳野原さんには、土湯のこれからについて、「私たちも！」という思いが強いと語ります。「次のイベントは、2月の恒例になりつつある真冬の花火です。白銀の世界で見る花火は、幻想的で冬の寒さも忘れてしまいます。ぜひお出掛けください」

春めいてきたら、つつじ山公園にも出掛けてほしいと陳野原さん。そこは、吾妻連峰の山懐に抱かれた女沼ぬまが見下ろせる絶好のビュースポット。「鏡のような静かな水面を見ると抱えていた悩みもどんどん小さくなっていきますよ」。心に元気が欲しくなったら温泉と美しい景色に身を委ねてみてはいかがでしょう。